

森とともに生きて



吉野林業の歴史がよくわかるシリーズ

第3回 明治から昭和の時代 資本主義林業の発展

谷 彌兵衛（林業経済史研究者）

奈良県の経済を支えた吉野材

大正一〇（一九二二）年発行の『奈良県の産業』によりますと、大正八年の奈良県の総生産額は一億七千二百四十四万四千二百七十九円余、うち米の生産額は二千六十八万四千二百七十九円余、工業生産額は七千三百二十七万四千二百七十九円余、その内容は綿織物、蚊帳、箆、草履など、在来産業の製品です。このことから、「大和の経済は国中の米と吉野の木材でもっている」といわれました。

吉野林業と土倉庄三郎

明治二三（一八九〇）年、東京上野公園で開催された第三回内国勸業博覧会に、川上村の土倉庄三郎は大量の吉野材を出品しました。その内訳は、幅八尺（二材

輸送・加工の技術だけでなく、多間伐による多収益林業という経営法が余すところなく解説されています。

杉・松の用材生産

吉野林業は杉と松の用材を生産する林業です。丸太が主産物でした。皆伐までに各階級の丸太が商品になりました。間伐材の利用が吉野林業の特徴でもありません。頭初の間伐材は稲架用の稲足や杭になり、つづく間伐材は足場丸太になり、中径木は建築用材に、大径木は板や樽丸になりました。

吉野材は、密植されているので、年輪幅が密で、均一です。だから強い木材になります。また、早くから枝打ちする



表面に凹凸をつけるために、杉につつじを巻きつける作業（昭和48年 東吉野村にて）

四〇疋）、長さ三〇間（六三三尺）の筏二連、木数にして千六百六十八本、その他、垂木、洗丸太、樽丸、杉打割物、杉酒桶樽、松柁、柁柱という豪華なものでした。博覧会事務局は、あまりの多さに驚き、図面あるいは雛形で出品するようにと指示しましたが、庄三郎は、出品の費用はすべて自分持ちとし、これら全てを陳列しなければ、出品は無意味と主張しました。庄三郎の意図は、関東地方の造林と流筏の稚拙さに対して、吉野林業の実態を示すことによつて感動を与え、ひいては国家の利益を増進させようということでした。庄三郎の意図は当たり、東都の人々を驚かせ、以後、吉野への視察が相次ぎました。その後も、庄三郎は再三にわたつて林政意見を發表して、国家的プロジェクトとして林業を振興するよう訴え、自身でも各地で造林に取り組みました。こうして、吉野林業は日本林業の模範となりました。

明治三〇年には、第四回全国材木業連合大会が吉野で開催され、同三二年には、大日本山林会が初めて地方での総会を奈良で開催しました。この大会で、吉野の杉と松は市場で最高の価格がつけられました。

磨丸太（洗丸太）は江戸初期から生産されていましたが、明治になって、小川村（現東吉野村）で人造絞丸太の生産が始まりました。人造絞丸太は、木材の表面に人工的に凹凸をつけ、磨いたもので、座敷の床柱はたいいてい人造絞丸太です。

樽丸は酒樽の板です。樹齢八〇年以上の杉の大径木からとりました。内側が淡紅色で、外側が白い板を内稀といつて最良品でした。これに清酒をいれると、杉の木香が酒にまじり、芳醇な酒になります。

資本主義林業

山林所有者が立木だけでなく、大々的に林地も所有するようになるのは、明治になってからです。明治六（一八七三）年、地租改正条例が制定され、林地にも宅地や農地と同じように税金がかけられるようになりまし。これは、零細な百姓にとつて重い負担になったので、林地を手放すきっかけになりました。荒麦を五升（九リツ）付けて、林地を山林所有者に引き取ってもらつたという話があります。

民法が施行されるのは明治三二年です。土地は不動産として登記できましたが、立木は不動産とはみなされなかつたので、



挿画吉野林業全書

『挿画吉野林業全書』の刊行

この二つのイベントの間の明治三二年、『挿画吉野林業全書』が刊行されました。著者は川上村の森庄一郎です。この書は、杉松の採種から、植林・保育・伐採・搬出・流筏を経て大阪の市場に到着するまでの全過程を挿絵入りで解説した、文字通り吉野林業の百科全書です。造林・伐出・

山林所有者はたいへん不安に陥られました。再三、政府や議会に請願して、ようやく明治三三年、「殖林ノ為設定シタル地上権登記ニ関スル法律」（立木法）が制定され、立木の地上権登記が可能になりました。この時の苦勞もあつて、山林所有者は林地も取得するようになったと考えられます。

地元の百姓は資本主義経済にまきこまれ、林地を所有するのが困難になりました。むら（大字）も学校を建てたり、道路を改修したりする度に、林地を村外の山林所有者へ売り渡しました。こうして、林業最大の生産手段である林地が村外の山林所有者の所有になりました。山林所有者は大規模に立木と林地を所有し、地元の林業労働者を雇つて林業を経営する林業資本家になりました。このような林業形態を資本主義林業といいます。二〇世紀になって、吉野林業は資本主義林業に変わりました。以後、吉野林業も経済変動の波にもまれながら発展します。

アジア・太平洋戦争の時期は、戦時統制下におかれ、自由な生産活動が出来ませんでした。また、軍用材の伐り出しで乱伐されました。